

2013年11月:JaCVAM活動マンスリーレポート

NO.	項 目	記 載 内 容
論文		
1	著者名	小島 肇夫
	題名	技術講座 安全性評価試験(25) 実験動物を用いる皮膚一次刺激性試験
	雑誌名、巻(号)、ページ、年	COSME TECH JAPAN, 3(11)36-39(2013)
2	著者名	小島 肇夫
	題名	日本動物実験代替法学会バリデーション委員会とJaCVAM
	雑誌名、巻(号)、ページ、年	日本動物実験代替法学会 第25回大会記念誌、27-34、2013
単行本		
1	発表者名	小島 肇夫
	書名	経皮吸収性の試験法と評価法
	出版社名、発行地、年号、ページ	株式会社 情報機構、東京、2013、pp.1-54
	掲載内容(150字以内)	近年、動物実験代替法の利用が普及しつつあるが、動物実験代替法のみでは薬物の有害性や薬効の評価はできても、リスクを評価できない。 経皮適用製品のリスクを評価するためには、動物実験代替法で有害性を把握した後、臨床試験に入る前にin vitro皮膚透過性と全身クリアランスを組合せて評価する時代が来るであろう。
国際学会		
1	発表者名	H. Kojima, M. Oshimura ^{*1} and N. Imatanaka ^{*2}
	他機関所属の著者がいる場合には所属機関名を記載する	^{*1} 鳥取大学、 ^{*2} 一般財団法人 化学物質評価研究機構
	演題名 (和訳を括弧書きで記載)	Japanese Project “ARCH-Tox” for alternative to28-day repeated dose oral toxicity study(日本プロジェクト ARCH-Tox:28日間反復経口投与毒性試験の代替法)
	学会名、発表年月及び場所	10th annual Meeting of KSAAE (Korean Society of AlternativeAnimal Experiments) , 2013年11月6日、韓国中央大学

レギュラトリーサイエンス学会		
1	参加者名	小島 肇
	会議名(英文の場合は和訳も記載)	Consultation Meeting on Alternative methods with KoCVAM(韓国動物実験代替法センターとの動物実験代替法に関する協議)
	開催場所, 年月	ソウル(韓国)、2013年11月7日
	会議内容(150字以内)	韓国において動物実験代替法バリデーションを進める専門家から進捗報告を受け、現状の問題点を指摘して議論した。
2	参加者名	西川秋佳、小島 肇
	会議名(英文の場合は和訳も記載)	ICATM Coordination Meeting (動物実験代替法国際調整会議)
	開催場所, 年月	イスプラ(イタリア)、2013年11月26および27日
	会議内容(150字以内)	日米欧韓の動物実験代替法センターの代表が一同に介し、各センターの組織、システム、進捗を確認した後、協力関係の構築について打ち合わせた。